



## 「顔認証」は前もって教えて

最近パチンコを打っていて、改めて台間玉貸し機の進化に驚くことがあります。今やほとんどの店で「ICカード」あるいは「ICコイン」が導入されていますが、借りた玉と出した玉の区別や計数はもちろん、貯玉や会員管理まで席を立たずにまかなえるのが、当たり前となっています。私が打ち始めた30年ほど前は、まずCR機はおろかプリペイドカード自体ありませんでしたし、お店によっては台間機すらもなかったため、大きな自販機のような玉貸し機で小箱に200円分ぐらいを入れてから、台を探す…といったことも、普通だった記憶があります。

その後、台間機の普及と共に紙幣が使えたりTVモニターが付いたり、プリペイドカードの対応も進み、92年にCRユニットが登場。90年代後半ぐらいからは、ICカード化に伴う付帯機能（会員カード管理や、液晶画面搭載など）も、どんどん進化していったように思います。そして遂に、イオン発生機やら顔認証カメラやらが組み込まれつつあるとか。特に、後者の顔認証について興味を持っていたところ、3月中旬開催された「パチンコ・パチスロイノベーションフェア2014」という業界向けイベントにて、その詳細を知ることができました。何しろ、会場では少なくとも5~6社で「顔認証」という言葉を見かけたほどですから、ちょっとした「トレンド」なのかもしれません。

顔認証については、ここ数年「ビッグデータ」と共に一般でよく聞かれるようになった言葉の一つで、個人の顔の特徴をデータ化し、防犯や販促などに役立てようとするものだと思います。販促…というのは、例えばリピーターさんを把握して、好みや動向といったパターンをデータ化することで、いち早く個人の嗜好などに対応したサービスを企画する、といったことですが、反面お客の側にとっては「プライバシーの侵害ではないか？」といった懸念があります。

顔認証ゾーン（「パチンコ・パチスロイノベーションフェア」の展示会場で）



パチンコの場合は、顔認証については出入り口や台間などにカメラを設置して、データを活用すること。例えば、マークしている不審者を見つけるためなら大いに役立ててほしいところですが、普通に遊びに行く立場としては「勝手に撮られてデータ化されるのはちょっと…」と、思ってしまう。しかし、その辺も説明を聞くと「個人が特定できない形でデータ化し、顔写真などは即日破棄する」といった、プライバシーに十分配慮したシステムとなっているそう。そして「日中に来る女性客が減少しているなど、ウィークポイントを把握して対処する」とか「滞在時間によって台の人気度を把握し、的確な入替えに役立ってる」といった、活用方法が紹介されていました。

このように説明を聞いて納得できた私や友人でしたが、「顔認証をやっていることを、あらかじめ断ってほしい」という意見で一致しました。セキュリティー等がしっかりしているからといって、プライバシーが気になる人は少なくないはず。まずは顔認証システムをちゃんと打ち手に説明した上で、導入していることを事前に知らせることが、信頼関係につながっていくのではないかと考えます。私自身も取材して理解したからこそ導入を進めてほしいと思っていますが、集客のためのツールが、情報公開をしなかったために誤解され、逆効果になってしまう恐れもはらんでいます。顔認証はそんなナーバスな側面も持つだけに、今後の普及と同時に十分な配慮もお願いしたいと思います。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（パジリコ、07年）